

平成26年度県立高等学校入学者選抜の結果について

平成26年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の特色選抜が2月6日（木）及び同月7日（金）、一般選抜が3月6日（木）、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月6日（木）、一般選抜が3月18日（火）に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

平成26年3月の県内中学校卒業見込者数（前年比86人の減）を考慮し、全日制課程の定員を12,515人（前年比40人の減、1学級の減）とした。

2 平成26年度入学者選抜について

(1) 特色選抜

これまでの推薦入学に替わって実施された特色選抜については、全ての全日制課程高校59校120系・科で実施された。特色選抜においては全ての高校で面接を課しており、36校82系・科では作文を、19校31科では、小論文を課した。また、学校独自検査は7校9科で課した。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から一般選抜（学力検査）

の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり、今年度の実施校は3校3科であった。教科別にみると、国数英の3教科を実施したのが2校2科、国数英社の4教科を実施したのが1校1科であった。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を1.5倍する教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜（学力検査）受検者に対する面接は平成元年度から導入しており、今年度は26校83系・科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については、特色選抜と同時に行うA海外特別選抜で33名が合格した。

定時制課程において、満20歳以上の志願者について学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる。この制度では、9名が合格した。

以下、各教科ごとの学力検査問題（全日制）について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程10校から1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 受検・合格状況の推移

	平成26年度				平成25年度				平成24年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	推薦入学	学力検査	フレックス特別	学力検査	推薦入学	学力検査	フレックス特別	学力検査
募集定員	12,515		640		12,555		640		12,595		640	
受検人員	5,693	11,109	149	306	2,826	11,997	160	310	2,692	12,049	157	315
受検倍率	2.04	1.21	1.24	0.57	0.99	1.22	1.33	0.59	0.94	1.21	1.31	0.59
合格人員	3,135	8,969	107	302	2,527	9,657	116	300	2,403	9,834	111	309
合格倍率	1.82	1.24	1.39	1.01	1.12	1.24	1.38	1.03	1.12	1.23	1.41	1.02

※ 受検倍率＝受検人員÷定員， 合格倍率＝受検人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語に関する事項に係る能力、表現する能力、理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語に関する事項についての知識及び理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方を捉え、あるいは作品の描写や登場人物の心情などを読み取るなどして自分の考えをまとめて、表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材にして、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、自分の考えを、理由を明確にして適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語に関する単なる知識にとどまらず、言葉の意味やまわりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立ててほしいということを願って出題した。

1 の漢字の読みの問題は、平均正答率は90.8%、2 の漢字の書きの平均正答率は66.2%であった。漢字の読みでは、概ね9割前後の正答率であったが、(5)恩恵は74.9%であった。書きでは(2)条件の79.8%を最高に、6から7割の正答率であったが、同訓異字の(3)務めるが55.4%と低かった。日常生活で使用できる語彙を増やすためにも、漢字学習の重要性を確認することが必要である。

5 の敬語に関する設問の92.4%をはじめ、基本的な文法事項については、全て7割を超える高い正答率であったが、今回新たに、句に詠まれている季節と内容を併せて考える出題形式の7の俳句については、正答した生徒が四分の一程度であった。伝統的な言語文化にも関心を広げ、日本語全般に関して、幅広く問題意識を持って学習に取り組みたい。

2 は、「閑田耕筆」を素材として出題した。武家の使用人の男が機転と勇氣とによって仲間を救い、自らも出世を果たす内容の文章である。仮名遣い、動作の主体(主語)、文の意味、内容の把握などを問う問題を設定した。

2の主語を問う問題が73.8%と高く、3の「秘薬」に関する記述問題が22.0%と低い正答率であった。その他の設問については、いずれも正答率が6割を超えており、受検者はおおむね内容を捉えることができていたといえる。

主語が省略される古文の特徴を踏まえ、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味を捉える学習等を継続したい。また、言語文化を継承するという観点からも、古文固有の言葉に注目し、古文特有の話の面白さを味わうなど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代

に息づく古典の価値を理解することが大切である。

3 は、山崎正和の「手づくりの意味の変遷」を素材として出題した。機械化の進展により、手づくりの意味が変質していく過程を述べるとともに、我々が扱う事物への認識を深めさせてくれる手仕事の意味について論じた文章である。

選択問題については、正答率が最も高い1が57.4%、筆者の考えを問う6が最も低い45.6%と、全て5割前後の正答率であった。一方、記述問題については、本文からの抜き出しの3が31.0%、「余暇のなかの手仕事」について説明する4が11.0%であった。なお、4の部分正答率は78.6%であることから、単に本文から抜き出すだけでなく、本文の表現を適切に用いて説明することが重要である。

説明的な文章の読解では、主張と具体例を区別して読んだり、根拠を抜き出したりするなどして、筆者が本文を通して伝えようとすることを正確に読み取る力を養っていく必要がある。その際には、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、グループで話し合ったりするなどの言語活動を通して、確実に力を付けていきたい。

4 は、熊谷達也の「桃子」を素材として出題した。娘が皆の前で朗読した作文によって、家族同様に育ててきた乳牛の「桃子」の売却が取りやめになるという内容の話であり、受検生にとっても読みやすい文章であった。文学的な文章の読解では、主観によらず、場面設定を踏まえ、それぞれの人物の心情や言動を押さえながら読み進めていくことが要求される。

選択問題については、登場人物の心情を問う3、4が9割近い正答率であったが、これは受検者が共感的に読みやすかったためと思われる。一方、これら選択問題の正答率が高いのに対して、「大人たち」や「安雄」の胸中を説明する記述問題では、2が38.8%、6が14.8%と正答率が低かった。また、本文中の表現を抜き出す1の設問についても44.0%で、5割を切っている。

文学的な文章は、各自の様々な読みの交流を図ることも大切であるが、解釈の妥当性を検証し合うような学習が重要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとにして意見を述べたりといった学習活動によって、確かな読みにつなげていきたい。

5 の作文は、充実した学校生活を送るために、候補として挙げられた5つの合い言葉から1つを選択し、選択した理由を説明するものであり、これらの内容を適切に書く能力を評価するものである。

語末が「～合い」という言葉から、人と人との関わりについて考えるとともに、自らの体験を振り返るなどして、自分の考えとその理由を記述することを求めている。普段の生活の中において、言葉に対する意識を高め、言語感覚を磨くとともに、自分の意見を表現する訓練をしておきたい。

また、授業の中では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」との関連において、事実と意見の区別や、根拠や理由の整理、効果的な表現などについて確認し、書く過程の学習の充実を図ることで、自ら考え、表現する力の向上を目指したい。

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	94.5 %	2	1	76.3 % (76.3)	4	1	44.0 % (44.6)		
		(2)	97.6 %		2	73.8 %		2	38.8 % (68.8)		
		(3)	99.1 %		3	22.0 % (44.3)		3	86.7 %		
		(4)	88.1 %		4	78.1 %		4	87.6 %		
		(5)	74.9 %		5	60.5 %		5	74.0 %		
	2	(1)	65.0 %	3	1	57.4 %		6	6	14.8 % (58.8)	
		(2)	79.8 %		2	47.6 %	5		(94.1 %)		
		(3)	55.4 %		3	31.0 % (35.3)					
		(4)	68.4 %		4	11.0 % (78.6)					
		(5)	62.6 %		5	54.6 %					
	3	78.1 %	6		45.6 %						
	4	74.6 %									
	5	92.4 %									
	6	81.0 %									
	7	24.0 %									

※ () 内は部分正答も含めた割合

社 会

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連に留意して出題した。
- 2 基礎的・基本的内容を3分野から取り上げて出題し、社会的事象に関する基礎的理解や思考力、判断力、表現力等をみるようにした。
- 3 3分野の総合問題として [2] を出題し、社会的事象を諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する力をみるようにした。
- 4 各分野ごとに論述問題を出題し、社会的事象に対する見方や考え方と、それを整理し表現する力をみるようにした。
- 5 地図・統計・年表等を正しく読み取る力、それらをもとにして考察し表現する力をみるようにした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的 分 野	歴史的 分 野	公民的 分 野	合 計
選 択	6(12)	5(10)	5(10)	16(32)
記 述	6(12)	8(16)	6(12)	20(40)
論 述	2(8)	2(8)	3(12)	7(28)
合 計	14(32)	15(34)	14(34)	43(100)

() 内の数字は配点

結果の概要

[1] は、広く地理、歴史、公民の各分野についての基礎的・基本的な知識及び理解度をみるようにした。記述の問題の正答率が昨年度よりも高い結果となった。

[2] は、東京駅の「レンガ」を素材に、地理、歴史、公民の各分野にわたる理解度をみた。2の問題は、近代日本の外交に関することを説明した文章を選択肢とした。個別的事象を記憶するだけでなく、歴史的事象の因果関係が理解できているかどうかをみる問題であったが、正答率は2割程度であった。また、論述問題の4は、建設廃棄物のリサイクル状況について、複数の資料から読み取ったことをもとにして考察し、表現する力をみる問題であったが、資料から必要な情報を読み取ることができずに、誤答となった解答がみられた。

[3] は、身近な地域の調査を素材にして、都道府

県の位置と名称の理解や、地形図に関する知識や技能の程度をみるなど、地理の基本的な内容を出題した。また、論述問題の2の(2)では、目的に応じて必要な情報を適切に読み取ることを求めた問題であったが、正答率は2割程度であった。

[4] は、新学習指導要領の趣旨を踏まえた出題である。南北アメリカを取り上げて、その地域的特色の理解の程度をみた。2は、南半球であるブエノスアイレスの雨温図を選ぶ基礎的な問題であったが、正答率は5割程度であった。5の論述問題では、気候の特色が農業に反映されていることを、複数の主題図から読み取る問題であった。放牧は、年平均気温10℃から20℃にまたがって分布していることから、気温の高低には関係がないことを読み取ることを求めていたが、その点の理解が不十分な受検生が多かった。

[5] は、詩歌の歴史を素材にして、古代から近世までの歴史的事象を文化と関連付けて出題をした。2の論述問題では、資料を適切に用いて国風文化の特色を表現する力をみたが、正答率は1割程度であった。かな文字の例を利用して国風文化の特色について説明することができた受検生は少なかった。学習指導要領では、言語活動の充実という趣旨を踏まえて、歴史について考察する力や説明する力の育成が求められている。4では、新学習指導要領で重視されている各時代の特色を大きくとらえるという趣旨を踏まえて、各時代の文化の特色について問う問題で、正答率は6割程度であった。新学習指導要領の趣旨を踏まえた歴史の学習を行っていくことが今後一層求められる。

[6] は、明治から現代までの歴史についての問題である。3は、年代の並べ替えの問題であり、正答率は4割程度となった。それぞれの出来事が起こった年号を覚えるだけではなく、歴史の流れをきちんと把握しているかどうか問われる問題である。各事象を歴史の大きな流れや歴史的背景の中でとらえていく学習が今後とも望まれる。

[7] は、新学習指導要領に設けられた「現代社会をとらえる見方や考え方」をテーマとした問題であった。現代社会をとらえる概念的な枠組みの基礎となるものとして、「対立」「合意」「効率」「公正」などが挙げられている。その中で、3の論述問題では、身近な事例を「効率」の面から判断する力をみるものである。「現代社会をとらえる見方や考え方」については、公民的分野の学習全般において活用していくことが求められている。

[8] は、好況時の経済に関連した問題である。論述問題の4(2)では、一般会計歳出における国債費の割合の増大が我が国の財政に及ぶ影響について、資料を用いて、考察し表現する力をみる問題であった。正答率は2割程度であった。

社会学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率			
1	1	(1)	67.5 %	3	1	(1)	76.9 %	6	1	61.3 %	
		(2)	90.1 %			(2)	52.8 %		2	11.5 % (27.3)	
		(3)	90.9 %		2	(1)	52.6 %		3	22.4 % (22.4)	
		(4)	63.4 %	(2)		35.5 % (67.8)	4		47.0 % (54.1)		
	2	(1)	78.2 % (78.6)	2	(3)	55.4 % (55.9)	5		64.1 %	7	1
		(2)	73.0 % (79.1)		1	76.5 % (76.5)	2	(1)	12.4 % (12.4)		
		(3)	55.4 % (57.7)	4	2	54.2 %		(2)	38.7 %		
		(4)	54.1 % (57.9)		3	76.4 %	3	27.9 % (34.0)			
2	1	(1)	52.2 % (55.2)	4	46.1 % (46.1)	8	1	74.8 % (74.8)			
		(2)	73.6 % (75.0)	5	13.8 % (73.9)		2	43.1 % (50.3)			
	2	22.8 %	5	1	74.0 % (75.3)		3	78.0 % (78.0)			
	3	45.9 % (46.9)		2	15.6 % (58.0)		4	(1)	66.2 %		
	4	(1)		61.2 % (62.8)	3			63.2 %	(2)	26.1 % (66.7)	
		(2)		63.2 %	4	35.4 % (36.5)	5	29.9 %			
		(3)		35.4 % (36.5)							

※ () 内は部分正答も含めた割合

数 学

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即し、数学の基礎的な概念や原理・法則の理解力、数学的な表現・処理能力及び事象を数理的に考察する能力を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、資料の活用の四領域からまんべんなく出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式の問題をとおして、数学全般に関わる基礎的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、数学的な思考力、表現力及び処理能力を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量や基本的性質に関する証明問題をとおして、直観的な見方、論理的思考力及び論証能力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、関数の基礎的・基本的な問題をとおして、関数的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 5 資料の活用の領域では、確率や標本調査の基礎的・基本的な問題をとおして、確率の考え方や統計的な見方・考え方を評価できるようにした。
- 6 数と式、図形、関数、資料の活用のうち、いくつかの領域からなる融合問題をとおして、事象の中に潜む関係や法則を数理的に考察し、数学的表現や処理の仕方を活用して、問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、各領域における基礎的・基本的な内容の理解力及び計算力をみる問題であり、平均正答率は82.1%であった（昨年度は71.1%）。全般的には良好であり、これからも、基礎・基本を大切にしていきたい。唯一、8の正答率が60%を下回った。関数の学習の初期段階において、座標の意味を理解させる教育活動を充実させる必要がある。

2 は、三つの領域（図形、関数、資料の活用）における理解力及び処理能力をみる基本的な問題であった。1は作図問題、2は標本調査、3は関数の問題であった。それぞれの正答率は35.0%、32.4%、53.6%であった。1と同様に、基礎的・基本的な内容について繰り返して学習することが重要である。なお、作図については、角の二

等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図について、描き方（技能）のみならず、それぞれの性質を合わせて理解させたい。

3 は、思考過程や計算過程を論述させることにより、数学的な処理能力をみる問題であり、1は、1次方程式の応用、2は、文字式を用いた証明であった。各問の正答率は1が28.6(41.1)%, 2は38.0(65.4)%であり（()内は部分正答も含めた割合）、基礎的・基本的な問題であるにもかかわらず、正答率が低かった。数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解させるとともに、方程式を解いたり、目的に応じて式を処理したりする技能及びそれを具体的な場面で活用する能力を身に付けさせたい。

4 は、図形についての基本的な証明や計量問題をとおして、図形の領域における論理的思考力をみる問題であった。1は直角三角形の合同を用いて二つの線分の長さが等しいことを証明する問題であった。この問題は基礎的な内容であったが、正答率は19.8%と非常に低かった。大きさの等しい角や長さが等しい辺に印を付けるなど、演繹的な推論の方法を身に付けさせたい。また、2は、底面積が与えられた正四角錐について、その体積を求める問題であった。正答率は26.3%であり、図形の性質を理解するとともに、それらを活用する学習を大切にしたい。

5 は、具体的な事象（二つの正方形が規則的に重なる事象）をとおして、二つの変数の関係を見出し、考察し表現する能力をみる問題であった。1の正答率は62.9%であったが、場面設定が複雑で問題文が長かったことも影響したせい、2の正答率は22.9%で3も正答率は低かった。関数におけるグラフの有用性を実感できる問題であり、粘り強く取り組んでほしい。

6 は、規則正しく作られた図形の交点の個数や線分の長さを求めることをとおして、複数の領域における理解力、思考力及び数学的な処理能力をみる問題であった。1の正答率が(1)は62.9%、(2)は22.9%と、応用力をみるやや難しい問題であったが高い正答率であった。2、3についても、約10%の正答率であった。最後までしっかりと考え抜く習慣を身に付けるようにしたい。

日頃から、方程式を利用して解を求めたり、事象の中に潜む規則性を見出したりする体験等とおして、数学の必要性や有用性を実感させることにより、学習意欲を高め、課題解決に主体的に取り組もうとする態度を育成したい。

<平26>

数 学 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	
1	1	98.9 %	2	1	35.0 % (38.9)	6	1	(1)	59.9 %
	2	92.8 %		2	32.4 %			(2)	55.3 %
	3	89.2 %		3	53.6 %		2		9.7 % (11.9)
	4	86.3 %	3	1	28.6 % (41.1)	3		9.1 %	
	5	88.7 %		2	38.0 % (65.4)				
	6	84.4 %	4	1	19.8 % (73.3)				
	7	90.0 %		2	26.3 %				
	8	56.5 %	5	1	62.9 %				
	9	84.3 %		2	22.9 % (32.3)				
	10	79.7 %		3	(1)	34.7 %			
	11	80.4 %	(2)		1.6 %				
	12	66.9 %							
	13	80.3 %							
	14	71.6 %							

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、第1分野（物理的領域、化学的領域）、第2分野（生物的領域、地学的領域）の2分野（4領域）の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 身近な現象や日常生活との関わりの深い内容を取り入れ、自然の事物・現象についての基礎的・基本的な知識・理解及び関心をみるようにした。
- 3 基礎的な観察、実験についての知識・技能をみるようにした。
- 4 観察、実験を通して、自然の事象を科学的に調べ、実証的、論理的に考察する力をみるようにした。
- 5 自然の事象を科学的に調べた結果を、的確に表現する力をみるようにした。

結果の概要

1 は、小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・理解及び関心をみるようにした。選択問題の平均の正答率が65.2%、記述問題で57.2%であった。4の問題は他の問題に比べて正答率が49.8%と低かった。各地質世代の代表的な示準化石の知識は必要である。6の問題は、正答率が30.4%と低かった。問題をよく読み、何が問われているのか考えることが必要である。

2 は、硝酸カリウムの溶解について、粒子モデルと関連付けながら考察する問題である。1のガスバーナーの使い方は、正答率が38.4%と低かった。実験器具の正しい使い方を身に付けることは、実験中の事故を防ぐことにもつながる。2は物質が水にすべて溶けている状態をモデル化した問題で、8割弱が正答している。おおむね正しい科学的概念が定着していると考えられる。3はそれぞれ正答率が23.9%と20.0%と低かった。溶解度曲線を適切に活用しながら、質量パーセント濃度の計算に慣れておくことが必要である。4は溶解度などの違いから物質を分離する方法を判断し、科学的な語句を用いて適切に表現することが求められる。

3 は、金星の特徴や見え方に関する問題である。1は代表的な惑星の特徴を理解することが求められる。4は正答率が41.7%であった。地球と金星の公転周期と模式図から、それぞれの天体の位置関係に関連付けて、金星の見え方を考察する力が必要である。

4 は、光の反射に関する問題である。1は正答率が7割を超えてはいるが、より正確な理解が求めら

れる。2は入射角と反射角の関係をもとに、正確に作図する力をみた。

3は横にした合わせ鏡の見え方をもとに、縦にしたときの見え方を問う問題である。現象の本質を理解し、状況が変わったときにどのようなようになるかを考察する力が求められる。

5 は、脊椎動物の分類や、環境への適応に関する問題である。4は水中生活から陸上生活へ環境が変わったことに着目し、殻の役割を考察することが求められる。普段の授業から身近な生物をよく観察し、その形態や機能を考えていくことが重要である。

6 は、乾湿計に関する問題である。2においては、正答率30.3%、中間点を含めても4割であった。湿度の算出方法を単に暗記するだけでなく、その意味をよく理解することが重要である。3については、正答率はかなり低かった。与えられた温度や湿度の情報を、よく整理しながら計算することが大切である。現代ではデジタルの湿度計がほとんどであるが、問題のような乾湿計を利用しながら、自然現象の本質的な理解をすることが大切である。

7 は、質量保存の法則や化学変化の量的関係に関する問題である。1は正答率が43.9%と低かった。教科書に出てくる基本的な化学式や化学反応式は、整理しておく必要がある。2については、正答率が高く、質量保存の法則の本質的な理解ができていたことがうかがえる。3は問題中の表から生成した気体の質量を計算し、反応した炭酸水素ナトリウムの質量との関係に着目しながら考察することが大切である。

8 は、土の中の微生物のはたらきに関する問題である。2については、容器C、Dに入れた土が十分に加熱されていることに注目し、その結果何が起きているか考えることが大切である。3は正答率が10.8%、中間点を含めても21.0%であった。2つの指示薬の反応からわかることを整理するとともに、発生した二酸化炭素の生成過程を考察することが求められる。

9 は、振り子のエネルギーに関する問題である。1は、正答率が約5割であった。振り子の運動に関する力の関係をよく理解しておくことが重要である。2は正答率が19.3%と低かった。平均の速さの算出方法を理解しておくことはもちろんのこと、単位の変換等にも慣れておくことが必要である。3は7割を超える正答率であり、力学的エネルギーの保存について、よく理解されていた。いずれも、問われているのは基本的な事項であるので、普段の学習や実験のなかで、それらを結びつけて理解していくことが重要である。

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	
1	1	72.8 %	3	4	41.7 %	8	1	61.7 %	
	2	71.5 %		4	1		入射角	76.2 %	2
	3	66.5 %	反射角				74.5 %	3	10.8 % (21.0)
	4	49.8 %	5	2	44.0 % (50.6)	9	1	50.6 %	
	5	68.2 % (72.5)		3	36.6 %		2	19.3 % (19.3)	
	6	30.4 % (31.3)	6	1	76.6 %		3	71.3 %	
	7	75.6 % (79.6)		2	62.7 % (66.4)		4	26.0 %	
	8	54.5 % (54.6)	7	3	66.1 % (67.5)				
		4		33.3 % (36.9)					
2	1	38.4 % (38.4)	6	1	60.6 % (60.6)				
	2	77.0 %		2	32.3 % (40.9)				
	3	質量		23.9 % (23.9)	3	10.5 % (13.9)			
		濃度	20.0 % (20.0)	7	1	43.9 % (60.7)			
4	39.6 % (52.9)	2	73.9 %						
3	1	64.5 %	3	質量	54.9 % (55.0)				
	2	72.2 % (72.4)			記号	56.4 %			
	3	50.1 %							

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、話す、読む、書くことの言語活動の4領域にわたって出題するようにつとめた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、話されることの内容を聞き取る基礎的な力を主としてみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語で正しく伝える力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にして、音声によるコミュニケーション活動を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体平均正答率は、60.8%であった。1は短い英文を聞いて適切に応答する力をみる問題である。5問の平均正答率は54.7%であった。2は英語の対話を聞いて、内容を理解する力をみる問題であり、各小問ごとに設問2つに答える形式である。正答率の平均は73.9%であり、各小問の平均正答率は(1)が62.3%、(2)が85.5%であった。3は聞き取りの内容を相互に関連づけて理解する力をみる問題であり、6問の平均正答率は57.2%であった。話された英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取る力や、必要とされる情報を正確に聞き分ける力等の育成が望まれる。今後もコミュニケーション能力を育成するという観点から、聞く力を高めていくことは大切である。

2 は、基礎的・基本的な事項についての理解度をみる問題で、動詞の時制や基礎的な応答などを素材にしている。6問の平均正答率は61.4%である。今年度、語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるため、語句を並びかえる問題を初めて出題した。3問の平均正答率は51.9%である。

3 は、対話の流れを把握しながら要点を捉える力をみる問題で、異文化理解をテーマに出題している。

今年度は日本の「茶会」とエチオピアの「コーヒーセレモニー」を話題として扱った対話文を出題した。3問の平均正答率は44.4%であった。1の下線部が指す内容を答える問題は、正答率53.1%であった。2、3の文脈から概要を捉えて解答する問題は、それぞれ正答率32.7%、38.7%であった。

4 は、書くことによって表現する力をみる問題である。言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。1は電話で友人に用件を伝えるために用意する英語を答える問題である。小問2問の完全正答率の平均は18.0%であり、中間点を含めると43.1%であった。2は絵をヒントに文脈から判断して、適切な英語で表現する力をみる問題である。小問2問の完全正答率の平均は16.2%であり、中間点を含めると42.9%であった。具体的な場面や状況を把握し、適切な表現を考え書くことが求められる。3は、与えられたテーマについて表現する力をみる問題である。今年度は、「テレビを見ること」と「本を読むこと」のうち好きな方を選んで理由も含めて英語で表現する出題とした。完全正答率は11.3%であったが、中間点を含めると85.0%であった。英語を書いて自分の気持ちや考えを相手にわかるように伝える力を育成するためには、言語材料についての理解の定着を確実に図ることと、英文の構成力・表現力の育成を目指して、日頃から英語で表現しようとする取組を積み重ねることが重要である。

5 は、物語文による読解問題であり、文脈に沿って内容を理解する力、概要や要点を捉える力をみるものである。今年度は、山登りに出かけたときに祖父の優しさにふれ、主人公の心が成長していく様子を描いた物語を題材にした。4問の平均正答率は48.0%であった。3は、文中から、主人公の心情を捉え、日本語で具体的に説明する問題を出題した。

6 は、説明文による読解問題である。今年度は紙の歴史と、厚紙や機能紙について述べた説明文を出題した。4問の平均正答率は45.4%で、中間点を含めると46.7%であった。

英文の内容を説明したり、その要点を捉え概要をまとめる力を身に付けるためには、日常的にまとまった英文の読解に取り組むことも大切である。

<平26>

英語学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	55.8 %	2	1	(1)	80.1 %	4	1	(1)	17.8 % (42.9)
		(2)	53.7 %			(2)	59.1 %			(2)	18.2 % (43.3)
		(3)	48.4 %			(3)	73.0 %		2	(1)	15.4 % (43.6)
		(4)	61.5 %			(4)	34.5 %			(2)	17.0 % (42.2)
		(5)	54.2 %			(5)	80.3 %	3		11.3 % (85.0)	
	2	(1)	①			79.5 %	(6)	41.5 %	5	1	
			②	45.1 %	(1)	64.7 %	2			36.7 % (38.3)	
		(2)	①	79.2 %	2	(2)	61.0 %	3		19.2 % (26.5)	
			②	91.8 %		(3)	30.0 %	4		56.0 %	
	3	(1)	98.6 %	3	1	①	59.9 % (69.4)	6	1		45.2 % (49.8)
		(2)	48.4 % (48.5)			②	46.2 % (50.5)		2	①	60.0 % (60.5)
		(3)	86.8 %		2		32.7 % (53.3)			②	61.9 % (63.4)
		(4)	23.7 % (36.9)		3		38.7 %		3		17.4 %
		(5)	16.9 % (26.0)						4		42.6 %
		(6)	68.7 % (74.9)								

※ () 内は部分正答も含めた割合